



ようこそおいでくださいました！ 第36回発表会 10月19日(土) 神戸文化大ホール

五月から発表会の練習が始まりました。ふだんのレッスンに飽きはじめていた子どもたちは生き生きと取り組み、暑い夏を乗り越え、台風の最中も暴風に傘を折られながらもお稽古に来てくれました。その成果をどうぞご覧ください。

作品は二作品ですが、どちらも一から台本を創りました。第一部のアゼルのお話は宇宙の、第二部のまほ子さんのお話は地球を巡る水の物語です。調べれば調べるほど、宇宙も地球の水も奇跡の連続、おどろきの連続です。舞台上の踊りではなかなか伝わりきれないこともありますので、少しばかりニュースをお伝えします。

しーっ しずかに アゼルが今ねているヨ

アイソン彗星がやってくる！

アイソン彗星は、パンスターズ彗星と同様に、回帰しない彗星です。太陽に極端に近づく軌道を持っています。そのアイソン彗星が近づいてきています。11月上旬には、日の出前後の空で、しし座からおとめ座の方向に移動します。11月後半には双眼鏡で見つけられるほどの明るさになります。11月下旬には増光する可能性もあり、肉眼でも見つけられるかもしれません。この頃にはてんびん座の方向に移動しています。最も太陽に近づく日本時間の11月29日4時には、明るさはマイナス等級にもなると期待されていますが、実際には彗星がやってこないことにはどんなふうに見えるのか、分かっていないようです。

星のあかちゃんの誕生

星のあかちゃんは暗黒星雲と呼ばれるガスの集まりから生まれてきます。暗黒星雲には、零下250度の分子ガスや塵がぎっしりと詰まっています。星雲のガスには濃度の濃いところと薄いところがあり、ガスの濃いところがなんらかのきっかけで集まって行くと、自ら生み出した重力で50万年くらいかけて収縮を始めていきます。そうすると、重力が強くなり、ガスが高密度になっていきます。ガスの密度が増すとガスの粒子が回転をはじめ、中心部の温度が上がりやがて光ようになります。これが星のあかちゃんである原始星です。

北極星の引っ越し

北極星とは、北極を地球の自転軸にそってのばした先にある星のことを言います。現在の北極星はコグマ座のアルファ星ポラリスですが、今から5000年ほど前の記録では、りゅう座のツバンという星が北極星でした。北極星が変わる！！なぜこんなことが起きるかということ、地球の自転軸が月や太陽の引力の影響で約26000年の周期で向きを変えるからです。ですから、自転軸の先にある星も変わっていくのです。今現在の北極星はコグマ座のアルファ星ポラリス。12000年後には、コト座のベガが北極星になります。

ベテルギウス超新星爆発

新星とは新しく生まれた星のことではなく、星がなくなるときに大爆発を起こして、そのために今まで見えなかった位置に星が見えるようになり、明るく見えるようになりやすくなることです。生前(?)の星の規模が大きいものほど爆発も大きく超新星と呼ばれます。そして、なんと今年オリオン座のベテルギウスが超新星爆発をおこすのではないかとされています。爆発を起こすと、太陽が二つになったのかと思われるほどの明るさになるかもしれないそうです。ベテルギウスは地球からの距離が640光年。今日見るベテルギウスは640年前のもの。ベテルギウスの超新星爆発をわたしたちが見たとしても、見たときにはもうすでに640光年彼方のベテルギウスは存在していないかもしれないのです。

まほ子さんとレナ

一粒の雨が、土の中にしみこんで地下水になって、露となって地上に現れ、流れになり流れが集まって川になって、海や湖にそそぎこみ、やがてその水が温められて上昇し、雲になって雨になる。これは当たり前(というべきか、これぞ奇跡というべきか)自然の循環ですが、雨が同じ場所に返ってくることがあるとすれば、それは200年に一度くらいの確率なのだそうです。水は循環の中で次々に美しい形態に姿を変えていきます。地球が奇跡の星と呼ばれる所以はすべて水の演出によるものと言っても過言はなさそうです。お話に出てくる水の形態をご紹介します。

御神渡り

おみわたりと読みます。湖の全面氷結した表面に割れて盛り上がった氷が山脈状に連なる現象です。氷の膨張と収縮が繰り返されることで起こります。諏訪湖や屈斜路湖でみることができます。諏訪湖の御神渡りは、湖の南側にある諏訪神社上社の男神が北側にある下社の女神の所へ通った道筋であるという伝説もあるそうですが、近年は温暖化の影響で、御神渡りのみられない年もあるそうです。

ダイヤモンドダスト

空気中の水蒸気は雲になり、雨や雪になって地上に降りてきますが、気温が零下10~20になると、水滴にならずに直接氷の結晶になります。1キロ先がみえる状態のものを細氷と呼びますが、細氷が太陽光を反射するとダイヤモンドの塵をまいたように見えるところから「ダイヤモンドダスト」と呼ばれます。ダイヤモンドダストが見られるとき、夕日や朝日から柱のような上下に伸びた光が見られることがあり、この現象はサンピラー(太陽柱)と呼ばれています。

彩雲

太陽光の回折によって雲の一部にピンクやみどりといった色が付いて見られる現象です。太陽光が雲粒(水滴)を通過するとき、光の波長に応じて虹のような輝きをつくります。雲の蒸気が蒸発して消えていくときは雲粒の大きさがそろうので、きれいな彩雲がみられます。彩雲は雲粒に依存して現れるため、雲の動きとともに色や模様が刻々と変化します。また、観測者から見た雲と太陽の角度によって現れたり消えたりするので、違うところで同時に見えることはありません。

嗚呼・人間よ、人間の力よ！

わたしはいま、必要がなくなってしまった人間力のある種の感慨を持って見送ろうとしているところである。その力とは、ナビなしで目的地に着く力ではない。また、変換機能に頼らずに漢字が書ける能力でもない。わたしが思っている力とはホールを引き当てる抽選力である。

神戸文化ホールの抽選が、コンピューター抽選になった。これにより、抽選の時間は短縮できたことであろう。時間の短縮！効率を求めるばかりで本当によいのだろうか。神戸文化ホールの抽選は、一年前の借りたい月の一日に行われる。まずは到着順にがらを回して番号を引く。この番号順にあいているホールを押さえていくのである。誰が抽選に行くか、わたしたちはじゃんけんによる真剣勝負で決める。もちろん勝ち者が行く。抽選の前日は大変である。塩で髪や体を洗う。排水溝やトイレ、玄関をきれいに掃除する。ホールに出かけるまでの電車ではずっと立っている。いざ抽選。自分の番が来たら、抽選のがらをのの前に立つ。丹田に力を入れる。深呼吸（必ず吐くから始める）。取っ手を持ったら、がらごと自分が一体になったイメージを持つ。その後は躊躇せずに一気に回す。人事を尽くして天命を待つ、である。こうやってわたしたちは36年間文化ホールを引き当ててきたのである。「あ～！藤田さんのとこか、あっこ必ず当てよんねん。」というひそひそ話が聞こえてきたこともあるそうである。当たり前である。わたしたちは抽選力を貯めるために、他の抽選の類には一切手を出さないのである。商店街の抽選でハワイ旅行なんて当たってしまったら、何年か分の力の消耗になる。かりがり君にだって手を出さなかったのだ。それなのに、コンピューター抽選だなんて。もういいよ、いろんな抽選をしてみなさいというお告げだろうか。抽選生活を送る人もいるときく。いろんな世界を楽しんでごらん。そういうことだろうか。

わたしの感慨とはよそに、10月1日、かじさんが抽選に行って、コンピューター抽選で5番を当てて、そうそうにホールを押さえて帰ってきた。来年の発表会は10月25日です。来年もご来場心よりお待ちしております。 菊本千永

終わりました！

ふれあいの祭典2013 ひょうご洋舞フェスティバル 10月5日(土) 兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール 『希望の木』

作詩・朗読 新井満 演出・振付 藤田佳代
出演 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 梁河茜 本田詠理奈 平岡愛理 中山千須子
菊原麻理奈 渡辺菜子 藤井花名 門家由采 坂本より 中江優来 大井遥 岡村春花 福本莉菜 池尻藍子 石澤佑唯

兵庫県洋舞家協会主催の秋の公演です。一部はクラシックバレエの、ラバヤデール。二部にモダンダンス『希望の木』が上演されました。『希望の木』は、新井満さんの書かれた詩本をもとに創られた作品で、陸前高田の高田松原で一本だけ生き残った松の木のお話です。出演は藤田の出演者のみ名前を挙げましたが、兵庫県洋舞家協会所属のダンサーがたくさん出演して下さいました。刺激のあるいい経験をできた舞台でした。本番も新井満さんによる朗読で行われました。生の朗読は何が起きるか分かりません。朗読入りで練習したり、朗読の入っていない音楽のみで練習したり、いろいろな場面を想定して練習していたので、朗読とずれることなく踊れました。舞台での稽古も三回できたので、10本落ちるはずの布が一本落ちないアクシデントもありましたが、なんとか対処できたように思います。作品の最後は218名によるコーラスで「いのちのバトン」が歌われました。出演者も盛り上がりましたし、お客様の反応もとても大きく、上演中はすすり泣きの声が聞こえていました。とても大きな舞台の幕を無事降ろすことができました。

DANCE BOUQUET 2013 8月25日(日) 本部スタジオ
PORTRAIT 菊本千永 Sun Power 稲益夢子・菊原麻衣花 ことばなき声がかきこえたら かじのり子
Humming bird 平岡愛理 微風のマリー 向井華奈子 しゃぼん玉はどこ？ 金沢景子 かぎろひを待つ 寺井美津子

ご来場お待ちしております

金沢景子モダンダンスステージ 11月30日(土) 18:30開演 神戸市立灘区民ホール

振付 金沢景子 藤田佳代(探す)
作曲 演奏 居倉健(CARAVAN)
鼓動鳴り止んでも 花筏 CARAVAN しゃぼん玉はどこ？ ガラスの器 探す
出演 寺井美津子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 石井麻子 板垣祐三子 灰谷留理子 梁河茜 平岡愛理 本田詠理奈 重友理帆
田中文菜 稲益夢子 菊原麻衣花 末吉花林 菊原麻理奈 渡辺菜子 原田光琉 金沢景子

1995年1月17日の阪神淡路大震災の直後に「生かされてここにいるのだから、悔いのないようにそれぞれのリサイクルをしよう」と佳代先生の一言で始まったリサイクルは4巡目を迎えます。一番くじを引いた私のリサイクルはまだ交通機関も完全復旧していない状況の中での開催。でも正直なところどうしたらいいかわかりませんでした。踊りを続けられるのだろうか、他に何かするべきことがあるのではないだろうか。開催は決まったものの何を踊ったらいいのかわからないまま無我夢中でその時の不安を作品にしました。

そして、2011年3月11日の東北地震、大津波、原発事故。

2012年5月、2013年5月に友人達と南三陸町にチャリティライブに行き仮設住宅の集会所などで踊らせていただきました。今年、戸倉中学校仮設住宅でのライブを終え移動のバスの窓から見送って下さった方々に手を振った時、1人のご婦人が「あなたー！昨年来てくれたよね。私、その時の日記に"今まで見たことのない心地のいいダンスをみた"って書いたのよ！今年もまた来てくれたのね。神戸からはるばるありがとう！また来年もここに居るからまた踊りに来てね！待ってるよー！」と笑顔で手を振って下さいました。その時ほど踊り続けてよかったと思ったことはありません。名前も知らない方に励まされて帰ってきました。来年もその仮設住宅に居るということは復興計画が進んでいないということです。可能なら、また来年もどのような状況になっているのかこの目で確かめに行きたいと思っています。

天災、原発事故、戦争、病気等、明日への不安はどこにいても尽きません。でもそんな時、あの想像をはるかに超えた出来事で悲しみ苦しみを経験しながらも笑顔で前向きに生きようとする南三陸町の方々の顔を思い出します。

偶然にも生かされた命と亡くなった命。自分で自分の人生を選んで生きてきたのだと思っていたけれど、それは考え違いで、数知れない偶然と、出会いが積み重なって今の"生"があります。推測でしかない未来の不安に思い煩うことなく、これからもできる限り踊り続けたいです。どうぞ、11月30日灘区民ホールまでお運びください。"生"あるうちの貴重な時間を一緒に過ごしていただけたら幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。 金沢景子